

## 「2015年 新入社員意識調査」結果

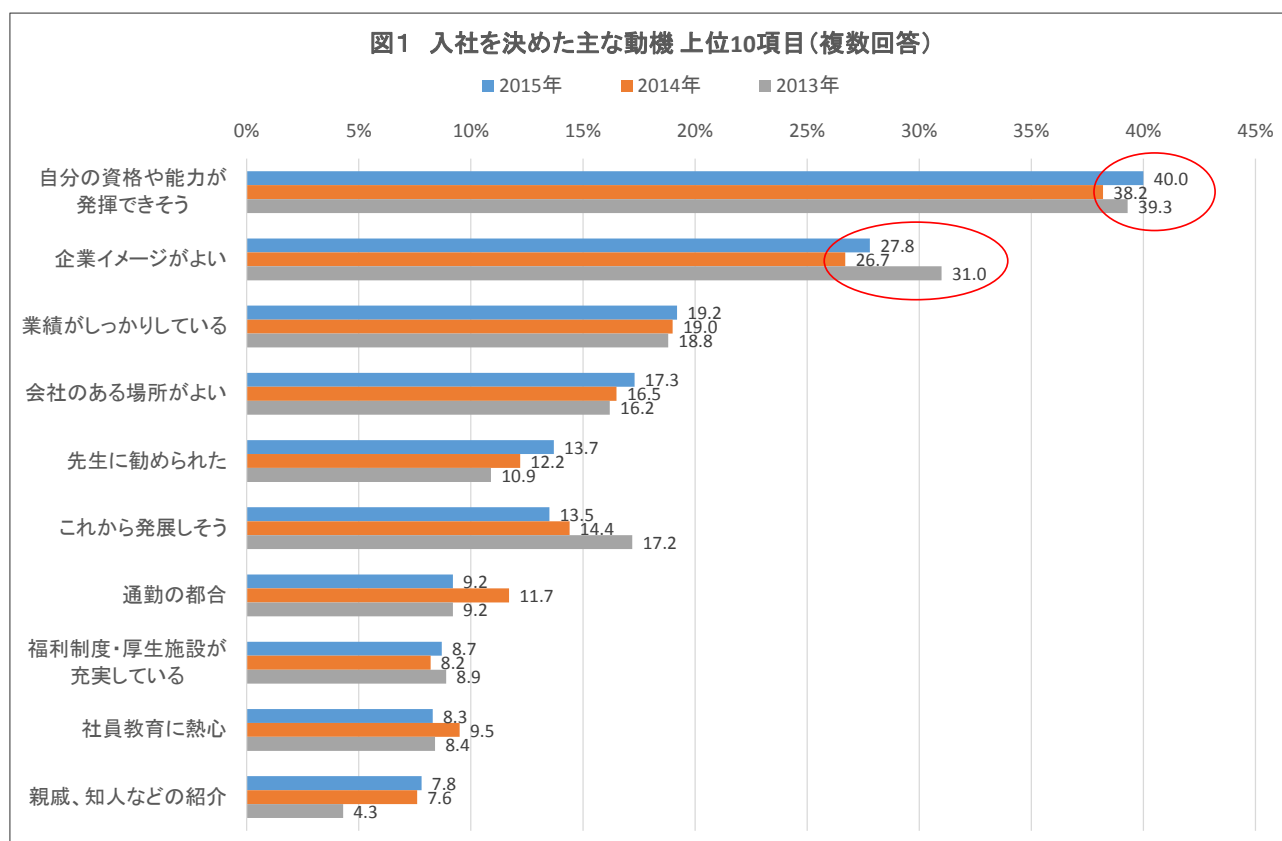
### 「定年まで」の意識高まるも、「転職」志向も増加

景気回復への期待感やそれに伴う人手不足から企業の新卒求人は改善傾向にあるものの、昨年の就職活動も厳しい状況が続いた。そのような中、今春も多くの新入社員が社会人生活の第一歩を踏み出した。毎年、県内企業の新入社員を対象に当社が実施するアンケート調査結果から、今年の新入社員の意識を探ってみたい。

- ◇調査名：「新入社員意識調査」
- ◇調査時期：3月25日(水)～4月24日(金)
- ◇調査対象：当社開催の新入社員研修に参加した新入社員
- ◇有効回答数：668人<男性348人(52.1%)、女性320人(47.9%)>

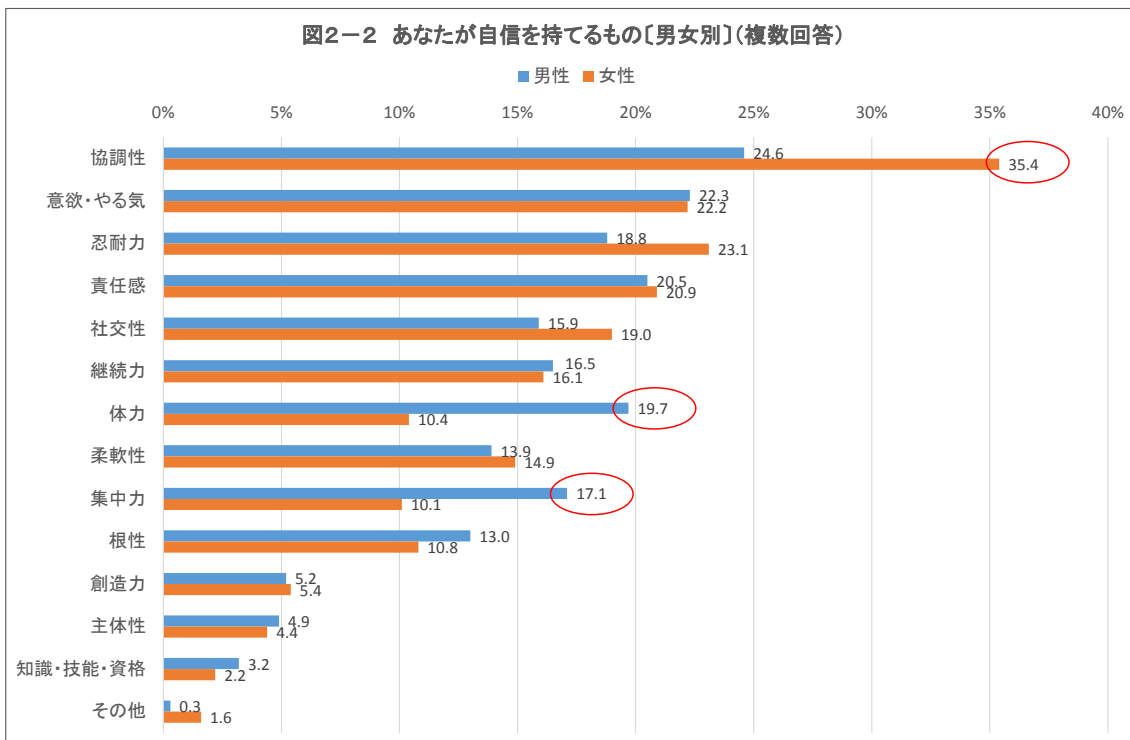
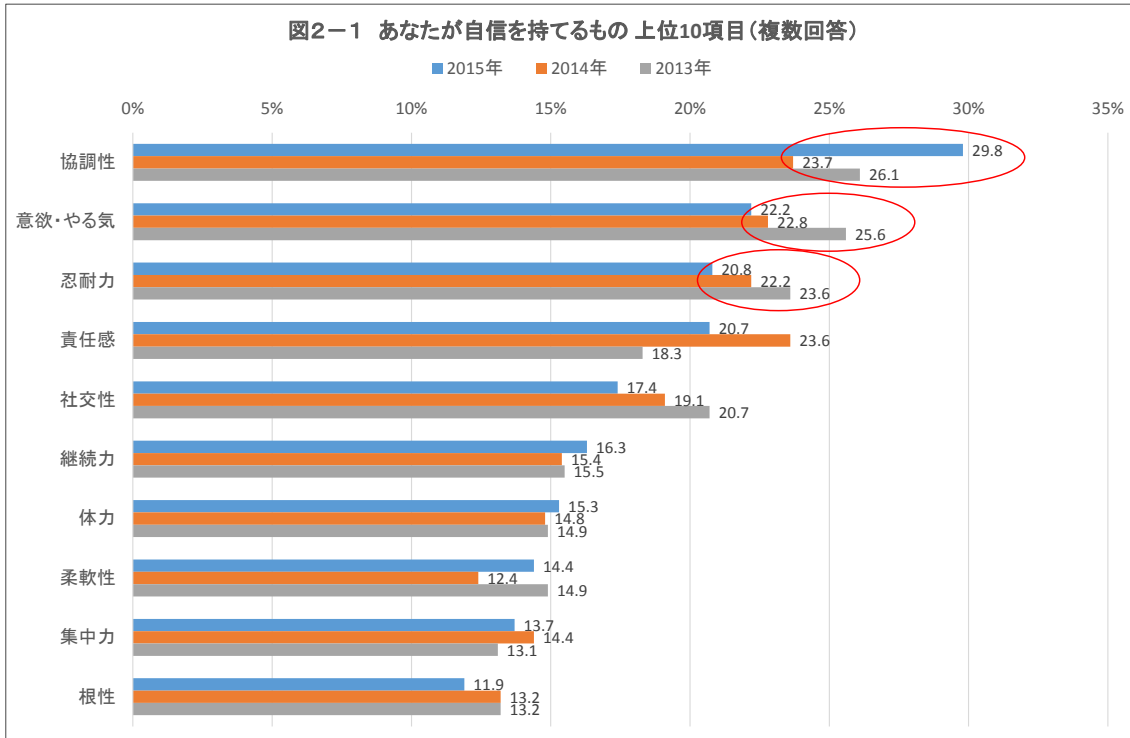
#### ■入社動機は「資格や能力が発揮できそう」が最多で4割

『入社を決めた主な動機は何か』（複数回答）と尋ねたところ（図1）、今年も「自分の資格や能力が発揮できそう」（40.0%）が最も多く、昨年より1.8ポイント増加した。次いで多い「企業イメージがよい」は27.8%と1.1ポイント増加した。「企業イメージがよい」との回答は、昨年、3年ぶりに前年差-4.3ポイントと大きく下落に転じており（2012年：29.9%→13年：31.0%→14年：26.7%）、大企業を重視する傾向は依然続いているものの、近年は企業規模にこだわらない姿勢も出てきているようだ。



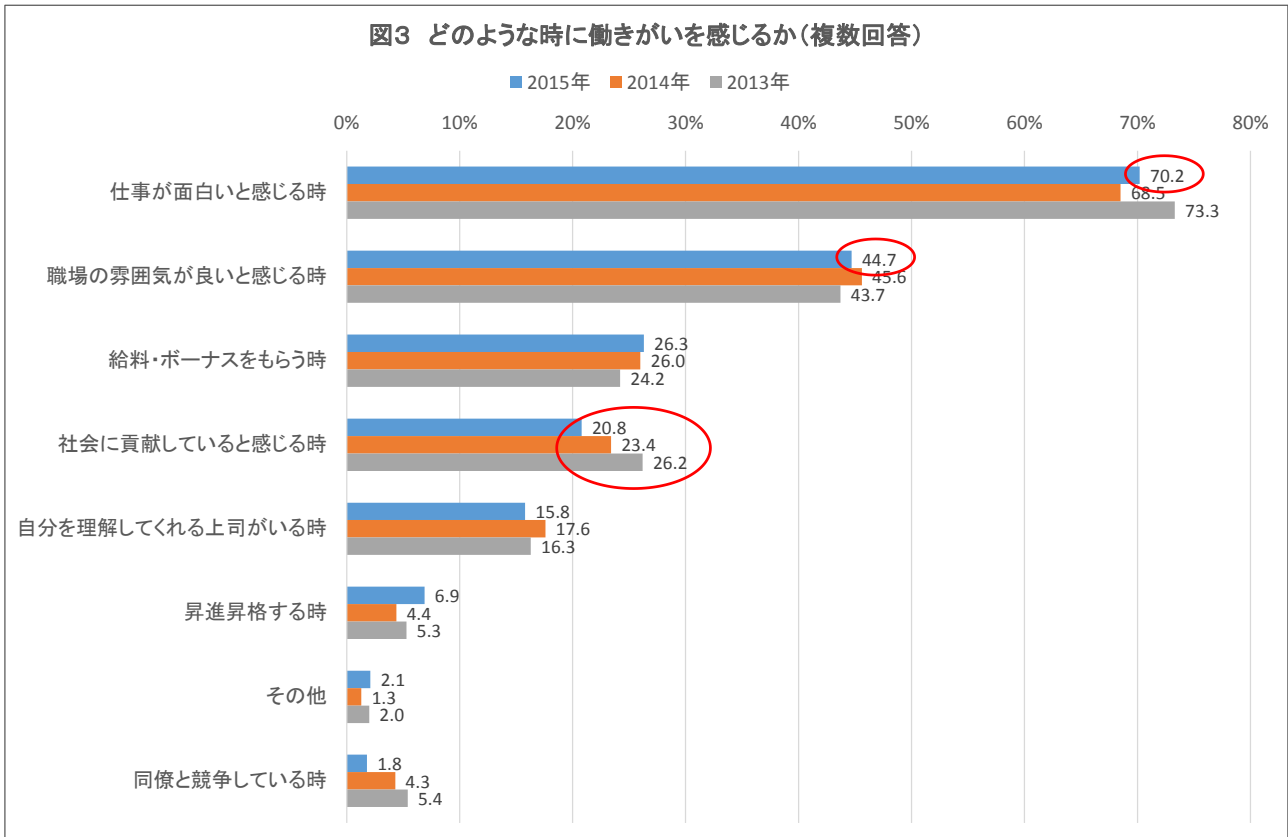
## ■女性は「協調性」、男性は「体力」「集中力」にも自信あり

『社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの』（複数回答）を尋ねたところ（図2-1）、「協調性」（29.8%）が最も多く、昨年に比べて+6.1ポイントと3年ぶりに大きく増加に転じた。次いで「意欲・やる気」（22.2%）、「忍耐力」（20.8%）と続いたが、どちらも近年減少する傾向にある（25.6%→22.8%→22.2%、23.6%→22.2%→20.8%）。最多となった「協調性」だが、男性の24.6%に対し女性は35.4%と10ポイント以上高く（図2-2）、女性のほうが自信を持っている人が多い。一方、男性は「体力」（19.7%、女性:10.4%）、「集中力」（17.1%、女性:10.1%）で、女性よりも割合が高くなった。



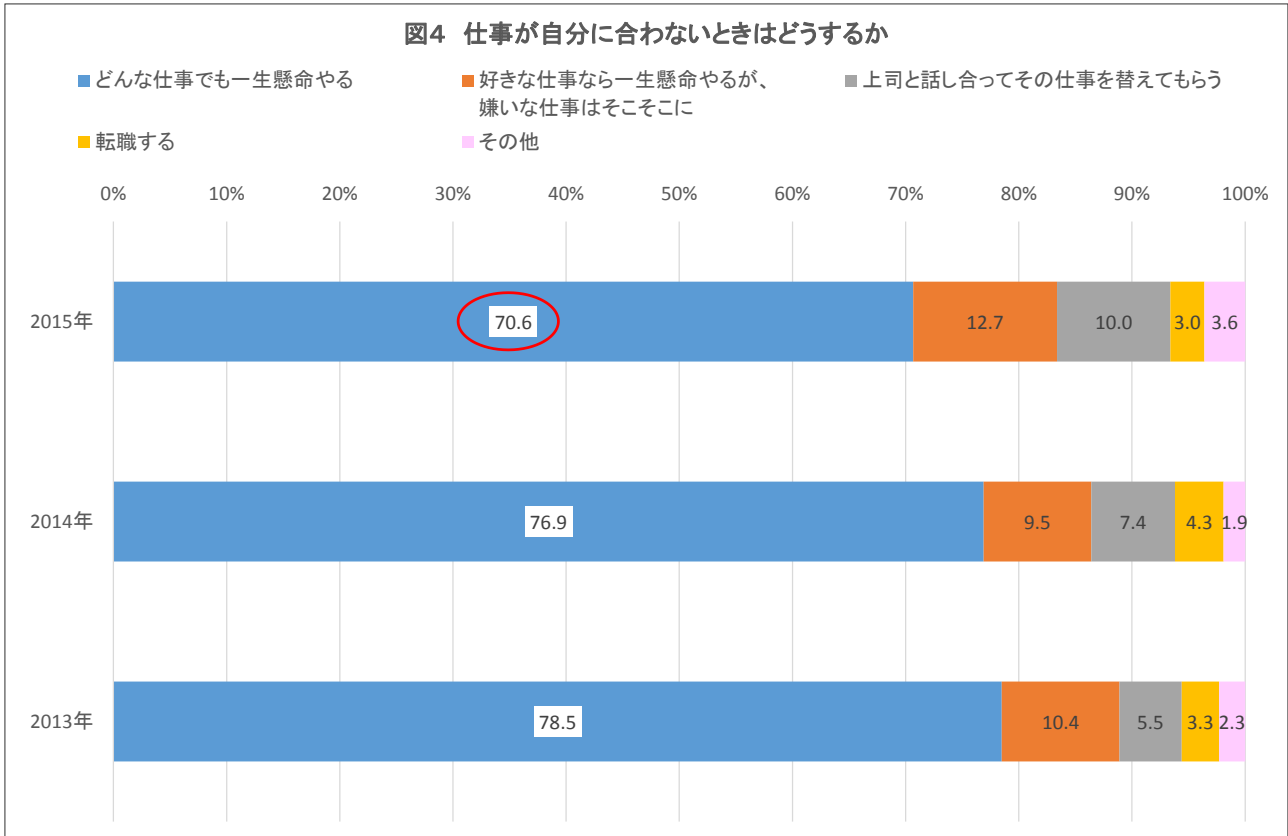
## ■働きがい、「社会に貢献している時に感じる」は減少傾向

『どのような時に働きがいを感じると思うか』（複数回答）と尋ねたところ（図3）、「仕事が面白いと感じる時」（70.2%）が最も多く、次いで「職場の雰囲気が良いと感じる時」（44.7%）と続いた。第4位の「社会に貢献していると感じる時」（20.8%）に働きがいを感じる人は年々減少する傾向にある。入社間もない新入社員にとって、自社の事業が社会でどのように役立っているかという実感はなかなか持てないのかもしれない。日々取り組む仕事と社会がどうつながっているのか、企業側も新入社員の意識を高めるための工夫が必要だろう。



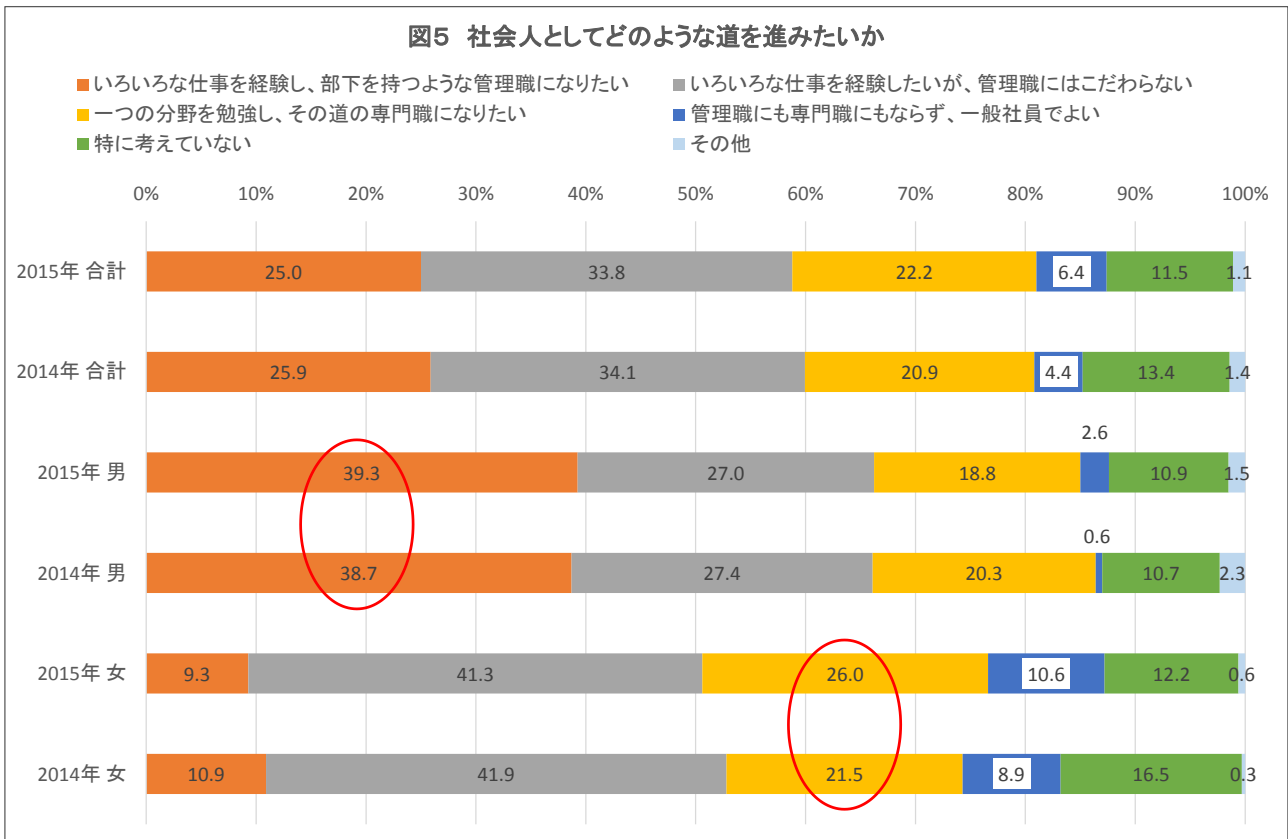
## ■「どんな仕事も一生懸命に」が7割

『仕事が自分に合わないときはどうするか』と尋ねたところ（図4）、例年どおり「どんな仕事でも一生懸命やる」（70.6%）が最も高くなったものの、昨年より6.3ポイント低下し、近年減少傾向にある。一方、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこに」（9.5%→12.7%）、「上司と話し合っってその仕事を変えてもらう」（7.4%→10.0%）が昨年より増加した。



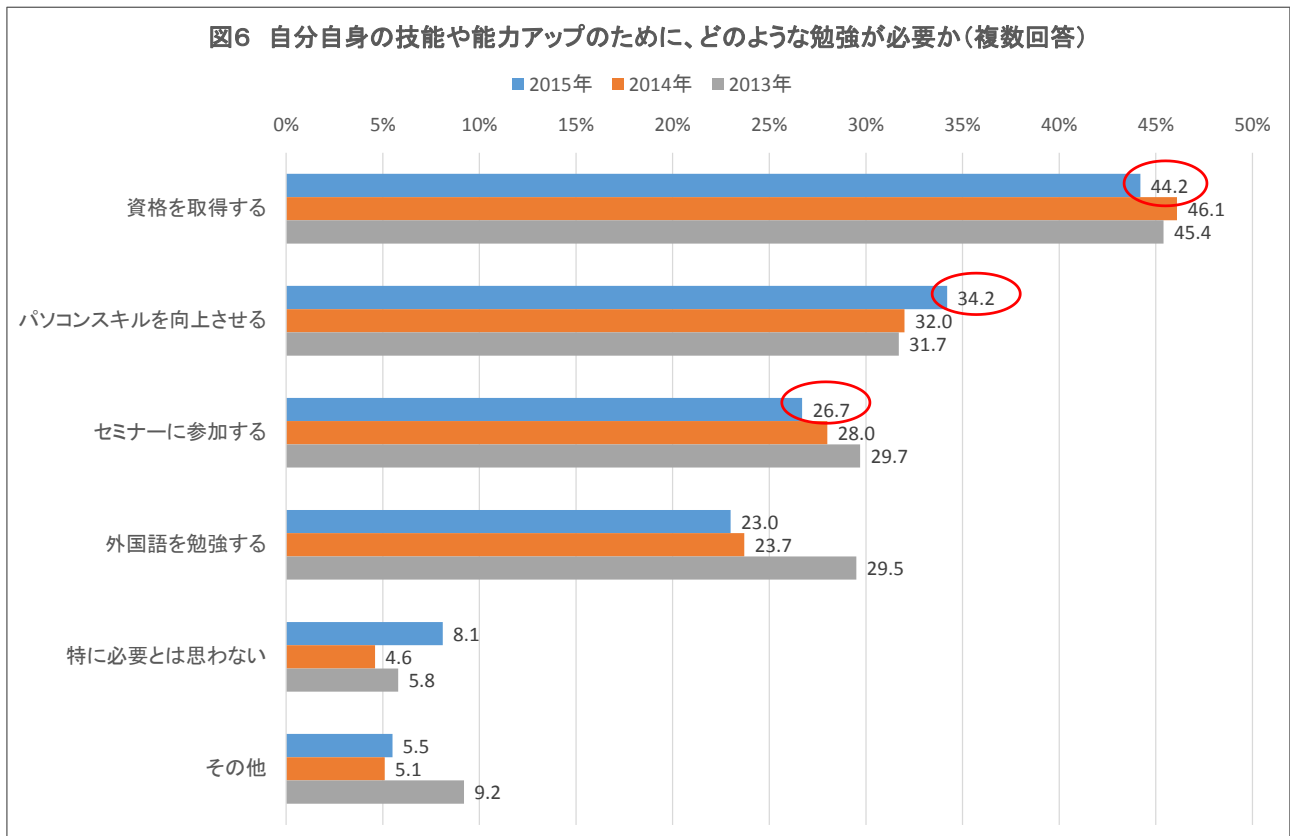
## ■「管理職にこだわらない」が最多となるも、4年連続で減少

『社会人としてどのような道を進みたいか』と尋ねたところ（図5）、「いろいろな仕事を体験したいが、管理職にはこだわらない」（33.8%）が最も多くなったものの、4年連続で減少した。次いで「いろいろな仕事を体験し、部下を持つような管理職になりたい」（25.0%）、「一つの分野を勉強し、その道の専門職になりたい」（22.2%）が続いた。男女別でみると、男性は「管理職になりたい」（39.3%）が最も多く、3年連続で増加した。女性は「管理職にはこだわらない」（41.3%）が最も多いものの、3年連続で減少。一方で「専門職になりたい」（26.0%）が昨年より4.5ポイント増加し、男性（18.8%）に比べ、女性のほうが専門職を志望する割合が高くなっている。



## ■「資格取得」を目指す約半数

『自分自身の技能や能力アップのために、どのような勉強が必要か』（複数回答）と尋ねたところ（図6）、「資格を取得する」（44.2%）が最も多く、次いで「パソコンスキルを向上させる」（34.2%）、「セミナーに参加する」（26.7%）、「外国語を勉強する」（23.0%）となった。「資格を取得する」では、一級建築士、簿記、宅地建物取引士（宅建）等、業種によって具体的な資格名の回答が多くあった。また「外国語を勉強する」で具体的記述があったのは「英語」が106人で最も多く、次いで「中国語」16人、「フランス語」3人となった。



## ■ 57.3%は「定年まで」。「よい仕事があれば転職」も増える

『定年まで勤めたいか』を尋ねたところ（図7-1）、「そうしたい」（57.3%）が最も多く、4年連続で増加した。安定志向はさらに高まっているようだ。一方で「他により仕事があれば転職する」が2年連続で増加（14.8%→15.9%→17.4%）し、全体としては2006年から13年まで、8年間減少傾向が続いていた転職に対して少し前向きになってきたようだ。

男女別にみても、男性の方が割合は高いものの、男女ともに「他により仕事があれば転職する」との“転職志向”は上昇傾向にある（次ページ、図7-2、図7-3）。また、男性では「いずれ独立したい」（6.5%）が今年も第3位になったものの、近年減少傾向にあり、起業や独立志向は弱まっているようだ。女性では「結婚したらやめる」（11.1%）が前年比+1.1ポイントと4年ぶりに微増となったものの、「子供ができたらやめる」（15.0%）は3年連続で減少した。結婚・出産後も働くという女性の割合は近年増加する傾向にあり、少子高齢化が課題となる中で、育児休業など子育て支援制度の充実や、制度を利用しやすい職場環境の構築が求められる。

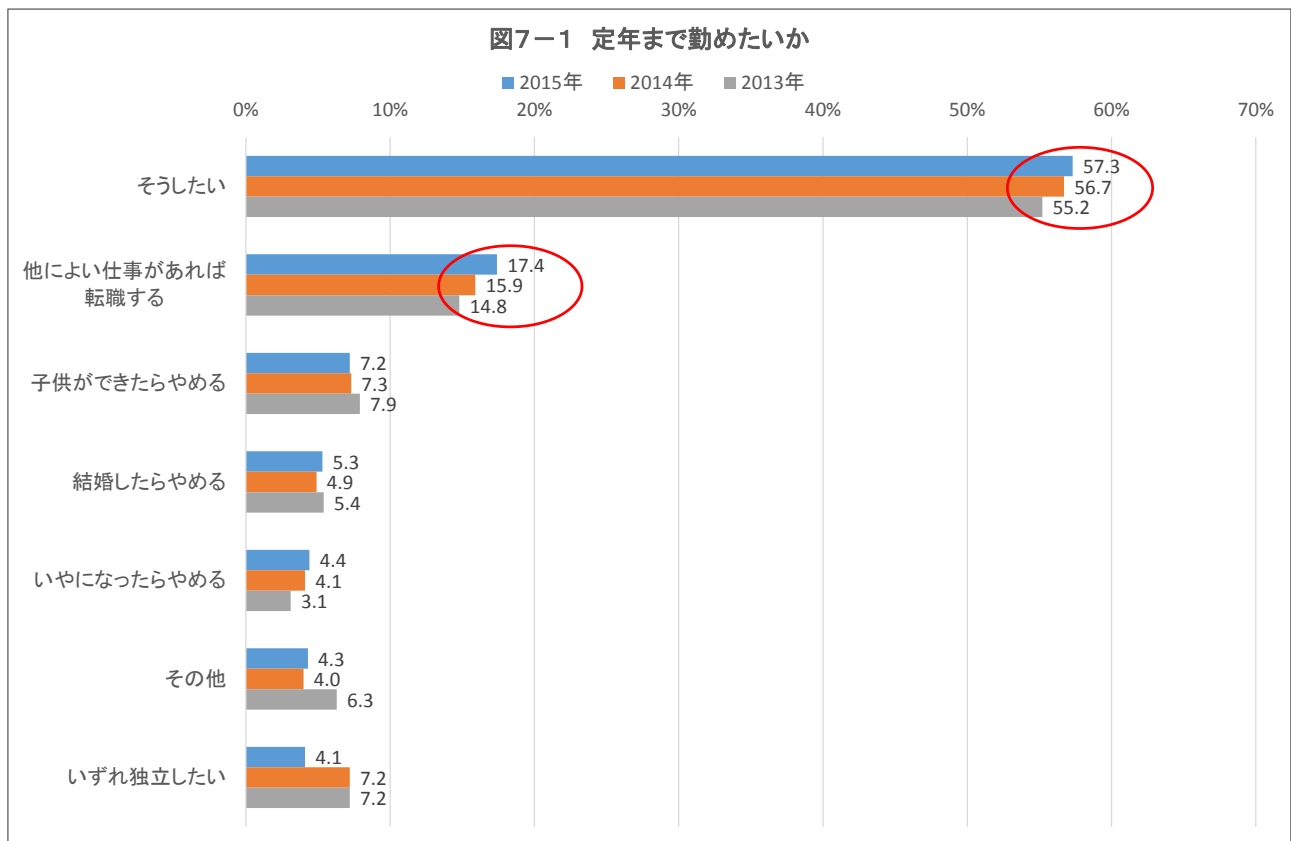


図7-2 定年まで勤めたいか(男性)

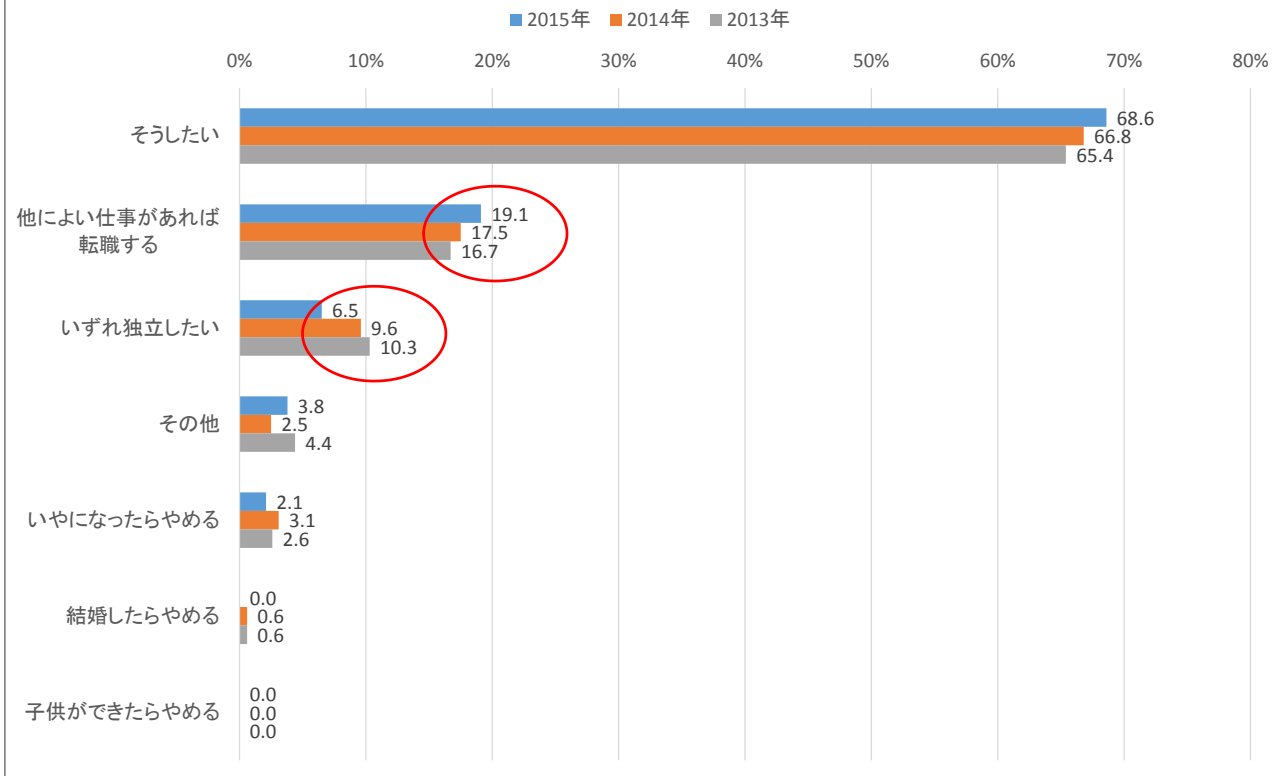
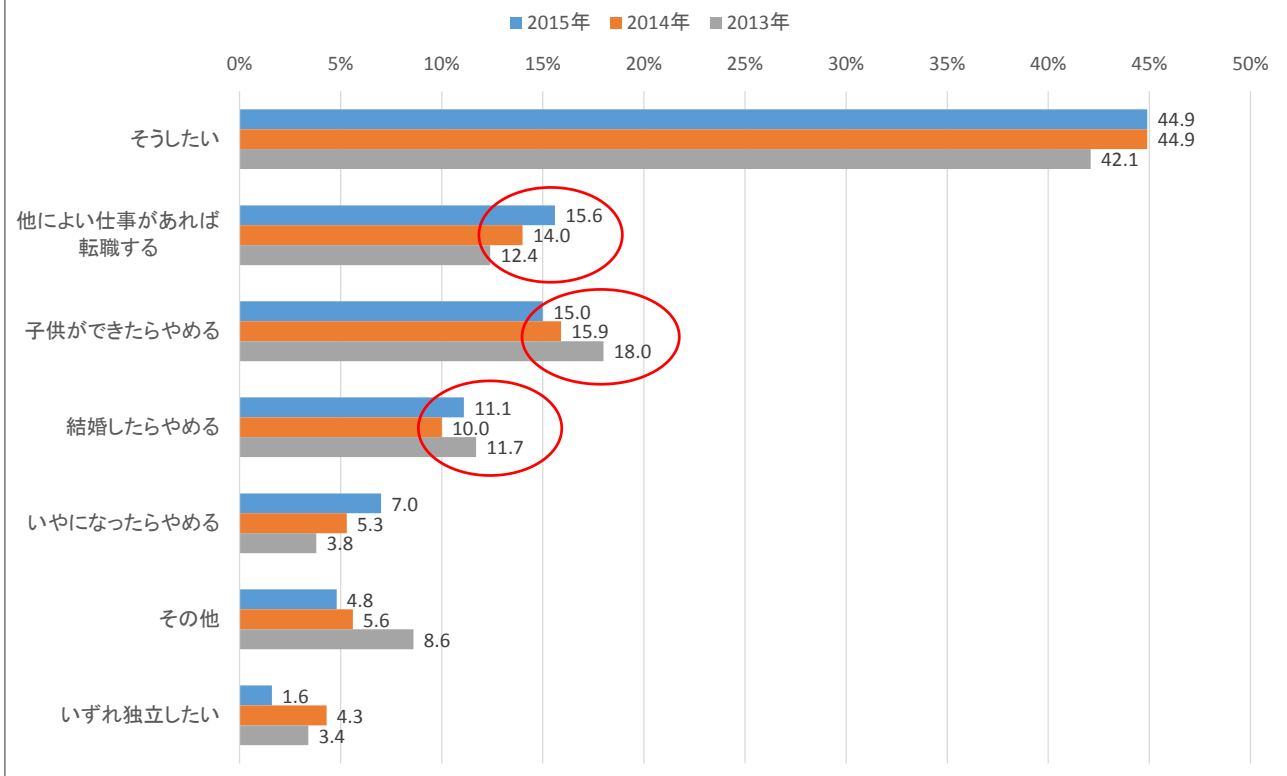


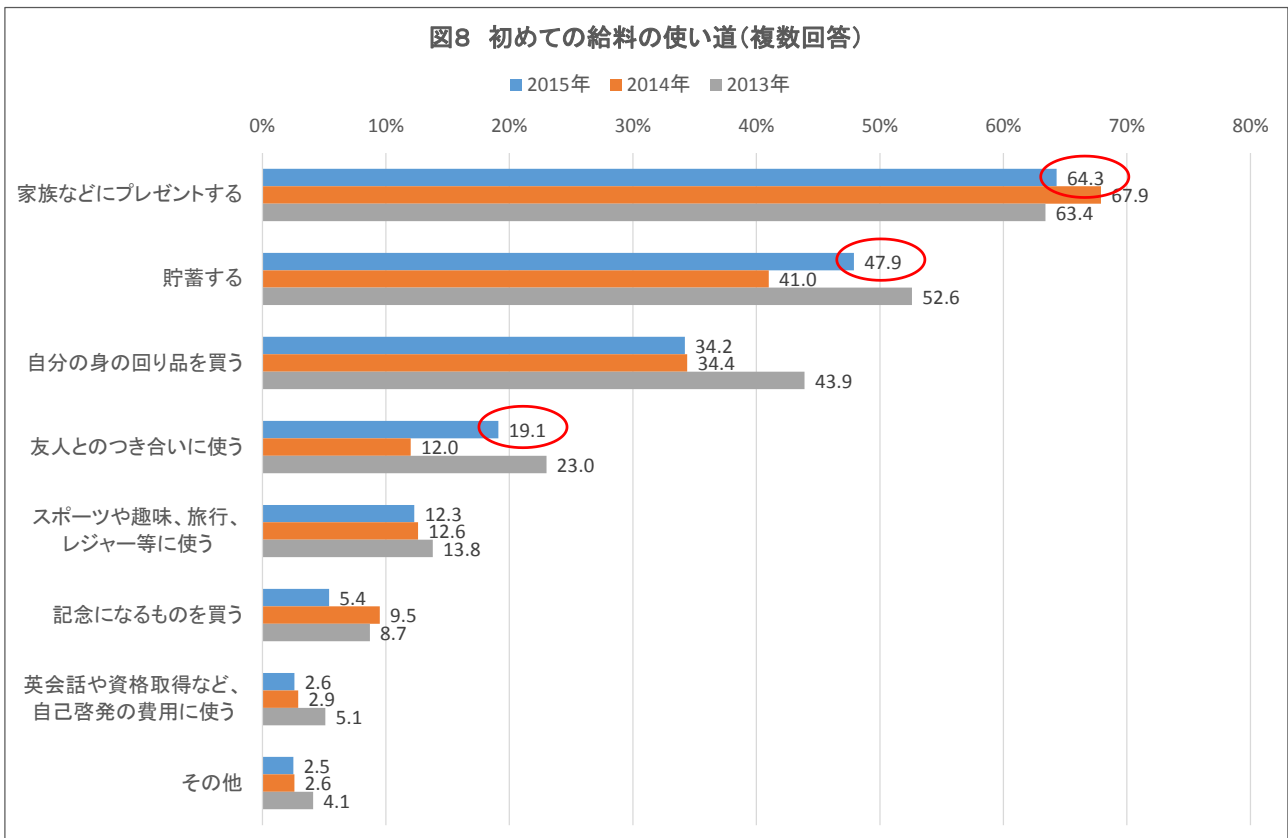
図7-3 定年まで勤めたいか(女性)





## ■初めての給料は「家族へのプレゼント」

『初めての給料の使い道』（複数回答）を尋ねたところ（図8）、「家族などにプレゼントする」（64.3%）が最も多く、次いで「貯蓄する」（47.9%）、「自分の身の回り品を買う」（34.2%）となった。「家族へのプレゼント」は昨年（67.9%）より3.6ポイント減少した一方、「貯蓄する」「友人とのつき合いに使う」は昨年より増加し（それぞれ41.0%→47.9%、12.0%→19.1%）。家族への感謝を形にしつつ、自分のために使おうという気持ちも強まっているようだ。



## ■理想の上司は今年も「イチロー」と「天海祐希」が人気

『理想とする上司像を有名人に例えると』と尋ねたところ（表）、男性の上司としては、米大リーガーの「イチロー」を54人（男性41人、女性13人）が挙げ、10年連続の1位となった。女性の上司では女優の「天海祐希」が74人（男性26人、女性48人）で6年連続の1位となった。

『その有名人を選んだ理由』では、「イチロー」は「仕事ができそう」「率先して手本を見せてくれそう」が各22人で最も多く、次に「目標ややり方をはっきり示してくれそう」が19人で続いた。「天海祐希」を選んだ理由は、「頼りになりそう」が33人で最も多く、次いで「面倒見がよく、何でも相談できそう」（31人）となった。

表 理想とする上司像

男性の上司	回答数(人)	順位	女性の上司	回答数(人)
イチロー	54	1	天海祐希	74
松岡修造	38	2	真矢みき	19
明石家さんま	18	3	江角マキコ	17
池上彰	16	4		
長谷部誠	15	5	仲間由紀恵	17
			米倉涼子	12

## ■モチベーションや持続性を高める工夫を

回復の兆しが見えつつあるものの、昨年の就職活動も厳しい状況が続いた。そのような中、自らの資格・能力を生かせる企業を志望する傾向は変わらず強い。また「協調性」に自信がある新入社員が大きく増加したのに対し、「意欲・やる気」「忍耐力」が減少傾向にあるのは気がかりだ。一方、男女とも「定年まで働く」との意識は高いものの、転職に前向きな姿勢も見える。仕事へのモチベーションや持続性を高めながらいかに能力発揮を促していくか、受け入れる企業側も努力と工夫が求められる。

2015年6月  
（株）しがぎん経済文化センター  
産業・市場調査部 長山 真由美